

## 2023年12月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)



2023年11月14日

東

上場会社名 株式会社リベルタ 上場取引所 東  
 コード番号 4935 URL <https://liberta-j.co.jp/>  
 代表者(役職名) 代表取締役社長 (氏名) 佐藤 透  
 問合せ先責任者(役職名) 専務取締役 (氏名) 二田 俊作 (TEL) 03-5489-7671  
 四半期報告書提出予定日 2023年11月14日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

## 1. 2023年12月期第3四半期の連結業績(2023年1月1日~2023年9月30日)

## (1) 連結経営成績(累計)

(％表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年12月期第3四半期	4,962	10.1	108	509.2	89	155.8	39	-
2022年12月期第3四半期	4,507	-	17	△89.5	34	△80.5	△0	-

(注) 包括利益 2023年12月期第3四半期 40百万円(305.2%) 2022年12月期第3四半期 9百万円(△90.7%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
2023年12月期第3四半期	円 銭 13.36	円 銭 13.36
2022年12月期第3四半期	△0.16	-

- (注) 1. 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益は、2022年12月期第3四半期については潜在株式が存在しないため記載しておりません。  
 2. 「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を2022年12月期の期首から適用しております。これにより、2022年12月期第3四半期の売上高の対前年同四半期増減率は記載しておりません。  
 3. 前連結会計年度において、企業結合に係る暫定的な会計処理の確定を行っており、2022年12月期第3四半期に係る各数値については、暫定的な会計処理の確定の内容を反映させております。

## (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
2023年12月期第3四半期	百万円 5,540	百万円 1,558	% 28.0
2022年12月期	5,311	1,575	29.6

(参考) 自己資本 2023年12月期第3四半期 1,552百万円 2022年12月期 1,571百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
2022年12月期	円 銭 -	円 銭 -	円 銭 -	円 銭 18.00	円 銭 18.00
2023年12月期	-	-	-	-	-
2023年12月期(予想)	-	-	-	22.00	22.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

## 3. 2023年12月期の連結業績予想(2023年1月1日~2023年12月31日)

(％表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	7,194	8.4	261	56.5	250	25.0	167	46.1	56.33

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 有

(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

新規 1社 (社名) フジアンドチェリーグループ株式会社、除外 -社 (社名)

(注) フジアンドチェリーグループ株式会社は2023年7月1日付でフジアンドチェリー株式会社に名称を変更しております。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用に関する注記

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

会計方針の変更に関する注記

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)

2023年12月期3Q	2,987,000株	2022年12月期	2,976,000株
2023年12月期3Q	18,971株	2022年12月期	34株
2023年12月期3Q	2,970,228株	2022年12月期3Q	2,971,620株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数 (四半期累計)

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述についてのご注意)

本資料に記載されている業績の見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P4「1 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(決算補足説明資料の入手方法について)

2023年11月14日 (火) に当社ウェブサイトに掲載する予定であります。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(会計方針の変更)	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間における我が国の経済は、新型コロナウイルス感染症の5類感染症への移行等に伴い、経済活動が正常化し、訪日外国人によるインバウンド需要が増える一方で、円安の進行、物価高騰、ウクライナ情勢の長期化、イスラエルとハマスの衝突、米中対立、金利上昇に伴う欧米経済の減速懸念等、国内、国外共に依然として不透明な状況が続きました。

当社グループが属する国内の化粧品、日用品、機能衣料、腕時計及び加工食品業界におきましても新型コロナウイルス感染症による行動制限が緩和され、化粧品や制汗剤、オーラルケアが復調の兆しを見せつつあります。

このような環境のなか、当社グループでは、経営理念「喜びを企画して世の中を面白くする」のもと、機動的かつ柔軟に市場の変化に対応し、企画開発やプロモーション、販売、顧客リレーション活動に取り組んでまいりました。

この結果、トイレタリーは、洗濯槽クリーナーブランド「カビトルネード」が大手ドラッグストア流通において梅雨時期に導入した企画商品の販売を強化したことで好調に推移し、カビ対策に特化したお風呂掃除ブランド「カビダッシュ」も昨年末のプロモーション施策が奏功した結果、新規導入店舗数の増加に繋がりました。また、水垢汚れのお悩み解決ブランド「ファイナルシャイン」が人気TV番組に露出したことも一因となり、トイレタリー商品売上高は1,046,848千円（前年同期比76.5%増）となりました。コスメ（その他）については、「目覚めてすぐキスできる”オーラルケアブランド「デンティス」が、著名人によるSNS投稿が続きブランド認知度が高まったことで特に国内最大手ドラッグストア1,500店舗への販売が引き続き好調に推移し、頑固な角質ケアブランド「つぶぼろん」は大手ドラッグストア約1,100店舗に新商品が導入されたことに加え、インバウンド需要の回復により増収となりました。また、次世代型デオドラントブランド「クイックビューティー」は、「コスメオブザイヤー2022 (LDK The Beauty)」の受賞を受け新規導入店舗数が3,000店舗以上増加したことや、既存販売店でのプロモーションを実施したことにより、こちらも増収となりました。以上の結果、コスメ（その他）商品売上高は1,332,745千円（前年同期比20.6%増）となりました。機能衣料は、汗と風で驚きの冷感が持続するクーリングウェアブランド「FREEZE TECH」が猛暑対策展への出展等を通じたメディア露出が増加し、ホームセンターでの取扱店舗数が前年より100店舗以上増加したことに加え、猛暑の影響により増収となり、機能衣料商品売上高は373,859千円（前年同期比19.1%増）となりました。Watchについては、直販部門、直営店部門、卸売部門がそれぞれ好調に推移したことにより、Watch商品売上高は224,697千円（前年同期比6.7%増）となりました。

浄水器・医療機器商品売上高は565,233千円（前年同期比45.5%増）、生活雑貨・オーラルケア商品売上高は765,415千円（前年同期比32.2%増）とそれぞれ2022年12月期第2四半期からファミリー・サービス・エイコー株式会社が連結対象となったため、第1四半期の売上が純増となりました。

また、2023年4月28日にフジアンドチェリー株式会社を連結の範囲に含めたことにより、ヘルス&ビューティー家電商品売上高は92,450千円の純増となりました。

一方、コスメ（ピーリングフットケア）については、国内においては、インバウンド需要の大きいエリアの主要ドラッグストア、主要量販店などにおいては販売好調となったものの、その他のエリアにおいては伸び悩み減収となりました。海外においては、米国でインフレによる消費活動の回復が見られない中、WalmartやTarget、その他法人の販売数が伸び悩み減収となりました。また、欧州では特にノルウェーにおいてSNSプロモーション施策などを積極的に実施しているものの、引き続きインフレの影響で販売が伸びず減収となり、コスメ（ピーリングフットケア）商品売上高は672,937千円（前年同期比21.8%減）となりました。その他については、2022年12月期まで他社仕入商品であった「さよならダニー」の商標権を当社が譲り受けたことにより、今期よりトイレタリージャンルに変更になったことが大きく影響し減収となり、その他商品売上高は123,888千円（前年同期比78.4%減）となりました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の経営成績は、売上高4,962,825千円（前年同期比10.1%増）、営業利益108,508千円（前年同期比509.2%増）、経常利益89,077千円（前年同期比155.8%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益39,686千円（前年同期は親会社株主に帰属する四半期純損失477千円）となりました。

なお、前連結会計年度末において企業結合に係る暫定的な会計処理の確定を行っており、前第3四半期連結累計期間との比較・分析にあたっては、暫定的な会計処理の確定による見直し後の金額を用いております。

ジャンル別の売上高の状況は、次のとおりであります。

(単位：千円)

ジャンル	2022年12月期第3四半期	2023年12月期第3四半期	増減率
コスメ（ピーリングフットケア）	860,954	672,937	△21.8%
コスメ（その他）	1,105,063	1,332,745	20.6%
トイレタリー	593,266	1,046,848	76.5%
機能衣料	313,785	373,859	19.1%
Watch	210,652	224,697	6.7%
浄水器・医療機器	388,491	565,233	45.5%
生活雑貨・オーラルケア	578,944	765,415	32.2%
ヘルス&ビューティー家電	-	92,450	-
その他	574,861	123,888	△78.4%
リベート等控除額	△ 118,375	△ 235,249	-
合計	4,507,642	4,962,825	10.1%

- (注) 1. 前第3四半期連結累計期間に記載しておりました「健康美容雑貨」及び「加工食品」は、第1四半期連結累計期間より「その他」に含まれております。
2. 各ジャンルの売上高はリベート等控除前の金額を記載しております。
3. 2023年12月期第2四半期よりフジアンドチェリー株式会社を連結対象としたことにより、新ジャンルとして「ヘルス&ビューティー家電」を追加いたしました。

## (2) 財政状態に関する説明

### (資産)

当第3四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べ228,673千円増加し、5,540,614千円となりました。これは主として、ヘルス&ビューティー家電ジャンルやWatchジャンルの新商品の仕入などにより商品及び製品が185,891千円増加したことに加え、フジアンドチェリー株式会社を連結の範囲に含めたことによりのれんが153,013千円増加したことなどによるものです。

### (負債)

当第3四半期連結会計期間末における負債は、前連結会計年度末に比べ245,783千円増加し、3,982,108千円となりました。これは主として、新規借入により短期借入金が250,000千円増加したことなどによるものです。

### (純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産は、前連結会計年度末に比べ17,065千円減少し、1,558,505千円となりました。これは主として、譲渡制限付株式報酬としての新株式の発行により資本金、資本剰余金がそれぞれ3,883千円増加、親会社株主に帰属する四半期純利益39,686千円の計上により利益剰余金が同額増加した一方で、剰余金の配当53,567千円により利益剰余金が同額減少したこと、自己株式の取得13,472千円によるものです。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、2023年2月14日発表の業績予想から修正しております。本日(2023年11月14日)公表いたしました「連結業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	986,196	890,368
受取手形及び売掛金	1,214,393	1,033,147
商品及び製品	1,188,257	1,374,149
原材料及び貯蔵品	64,077	78,344
その他	340,741	485,114
貸倒引当金	△1,351	△1,445
流動資産合計	3,792,315	3,859,678
固定資産		
有形固定資産	708,359	691,614
無形固定資産		
のれん	308,392	461,405
その他	281,155	339,196
無形固定資産合計	589,547	800,602
投資その他の資産		
投資その他の資産	289,636	256,635
貸倒引当金	△67,917	△67,917
投資その他の資産合計	221,718	188,718
固定資産合計	1,519,625	1,680,935
資産合計	5,311,941	5,540,614

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	639,111	627,531
短期借入金	700,000	950,000
1年内償還予定の社債	60,000	60,000
1年内返済予定の長期借入金	433,086	472,993
未払法人税等	26,758	5,273
返金負債	19,700	137,700
その他	443,054	377,372
流動負債合計	2,321,710	2,630,869
固定負債		
社債	90,000	30,000
長期末払金	65,099	63,083
長期借入金	1,152,264	1,145,544
製品保証引当金	6,800	8,500
退職給付に係る負債	63,697	67,286
資産除去債務	36,799	36,825
固定負債合計	1,414,659	1,351,239
負債合計	3,736,369	3,982,108
純資産の部		
株主資本		
資本金	195,166	199,049
資本剰余金	378,418	382,301
利益剰余金	995,136	981,255
自己株式	△21	△13,493
株主資本合計	1,568,699	1,549,112
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	2,820	3,029
その他の包括利益累計額合計	2,820	3,029
新株予約権	-	1,858
非支配株主持分	4,051	4,505
純資産合計	1,575,571	1,558,505
負債純資産合計	5,311,941	5,540,614

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年1月1日 至 2022年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年1月1日 至 2023年9月30日)
売上高	4,507,642	4,962,825
売上原価	2,721,179	2,903,113
売上総利益	1,786,463	2,059,712
販売費及び一般管理費	1,768,652	1,951,203
営業利益	17,810	108,508
営業外収益		
受取利息	189	1,246
為替差益	25,903	-
保険解約返戻金	18,210	-
その他	1,780	1,286
営業外収益合計	46,083	2,533
営業外費用		
支払利息	12,144	13,912
支払保証料	15,473	3,125
為替差損	-	1,118
その他	1,452	3,808
営業外費用合計	29,070	21,964
経常利益	34,823	89,077
税金等調整前四半期純利益	34,823	89,077
法人税、住民税及び事業税	1,227	11,435
法人税等調整額	24,538	37,501
法人税等合計	25,766	48,936
四半期純利益	9,057	40,140
非支配株主に帰属する四半期純利益	9,534	454
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△477	39,686

四半期連結包括利益計算書  
第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年1月1日 至 2022年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年1月1日 至 2023年9月30日)
四半期純利益	9,057	40,140
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	901	209
その他の包括利益合計	901	209
四半期包括利益	9,958	40,349
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	424	39,895
非支配株主に係る四半期包括利益	9,534	454

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(時価の算定に関する会計基準の適用指針の適用)

「時価の算定に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日。以下「時価定会計基準適用指針」という。)を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準適用指針第27-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準適用指針が定める新たな会計方針を将来にわたって適用することとしております。これによる四半期連結財務諸表に与える影響はありません。